

## はたちの主張

### 家族への感謝

二十歳になった今、私が一番伝えたいのは家族への感謝です。はたちという節目を迎え、これまでの二十年間を振り返ると、決して順調な道だけを歩んできたわけではありませんでした。

高校一年生の時、私は体調を崩し、思うように学校生活を送れない時期がありました。朝起きることがつらく、心も体も前に進めない日々の中で、不安や焦りばかりを抱えて過ごしていました。周りと同じようにできず、当たり前のことができない自分を責め続ける時間が続いていました。

周りの人たちは当たり前のように学校へ行き、毎日を過ごしていました。それなのに自分だけが立ち止まっているように感じてしまい「どうして自分だけ当たり前のことができないのだろう」と思うこともありました。

そんな中で、私は自分のペースで進むことを選びました。それは今考えてみると先の見えない選択だったと思います。それでも両親はその選択を否定

することなく、自分自身が選んだ道なら大丈夫だと受け止めてくれました。

当時の私は両親に対して素直になれず、その言葉の本当の意味を理解できていなかったと思います。けれど何も言わずに信じて見守ってくれたからこそ、今の私がいるのだと感じています。自分のペースで生活を送る中で、私はデザインに出会いました。自分の気持ちや考え、そして自分自身を色や形で表現することの面白さを知り、これをもっと学びたいと初めて心から思えるものに出会いました。

大学生になり、デザインを学ぶ中で表現することの難しさと同時にその奥深さや楽しさを日々実感しています。自分らしさを形にすることは簡単ではなく、思うようにいかないことも多くあります。それでも、試行錯誤を重ねながら少しずつ形になっていく過程に大きなやりがいを感じています。

二十歳になって、ただ「好き」という気持ちだけでなく、自分の表現に責任を持つことの大切さも感じるようになりしました。何を伝えたいのか、誰に届けたいのかを考えながら制作する中

で、少しずつですが、自分のやりたいことが見えてきた気がします。

まだ迷うことも多いですが、それでもこの道で頑張りたいと思えるものに出会えたことは、私にとって大きな変化です。

これまでの経験と、家族に支えられてきた時間を大切にしながら、これからも自分の選んだ道を歩いていきたいと思えます。そしていつか、成長した姿で、支えてくれた家族に心からありがとうと伝えられる人になりたいと思います。

令和8年3月15日 眞柴 滯音